

第 2 次宇陀市総合計画

基本計画 (素案)

平成 30 年 10 月

宇陀市

1.	健幸なまち	1
1.1	「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”」の実現	1
1.2	みんなの幸せを支える福祉環境づくり	3
1.3	結婚・出産・子育て世代への魅力ある支援の充実	5
1.4	地域医療体制の充実	7
2.	暮らしやすいまち	9
2.1	みんなが住み良いまちづくりの実現	9
2.2	移住・定住の促進強化	11
2.3	公共インフラの持続的な整備・維持・活用	13
2.4	災害に備えた安全・安心な暮らしの実現	15
3.	活力あるまち	17
3.1	地域資源の保全及び産業と連携した活用	17
3.2	地域の産業の発展を担う次世代の人材の確保や育成	19
3.3	基幹産業である農林業の再生・活性化	21
3.4	商工業の再生・活性化	23
3.5	観光戦略の推進	25
4.	生涯輝くまち	27
4.1	人権を大切にする共生のまちづくりの実現	27
4.2	子どもたちの教育環境の充実	29
4.3	多様な学びの場の整備・充実	31
4.4	スポーツ・芸術・文化の振興	33
5.	自然豊かなまち	35
5.1	豊かな自然環境の保全・活用	35
5.2	生活環境の整備・充実	37
5.3	公園・緑地の整備・活用	39
6.	地域力を発揮するまち	41
6.1	市民と行政の協働のまちづくり	41
6.2	健全な行政運営の推進	43
6.3	広域行政の推進	45
6.4	地域力の再生・強化	47

1. 健幸なまち

1.1 「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”」の実現

(1) 施策の方向性の概要

高齢化の進展等により、医療や福祉に対するニーズが高まっています。一方で本市の行財政は厳しい状況が続くと想定されているなかで、市民が健やかに暮らせるまちを実現するために、本市が取り組んでいる「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”」を継続します。“健幸”の実現には多方面の取り組みが必要であり、総合政策としての健康政策が重要となります。健康は個人のものだけでなく、高齢になっても地域で暮らせることが“社会貢献”につながります。“健幸”をまちづくりの基本に捉えた政策を連携しながら実行することにより、健康長寿の市を実現します。

(2) 現況や課題の認識

高齢者の増加や生活習慣が変化する中で、慢性疾患や生活習慣病が増加傾向にあります。市民の健康意識は食生活や健康管理に対して関心が高まっているものの、年齢・性別・価値観により意識に差異があります。

特定健康診査の実施率については、制度開始当初は県平均より5%程度低い状況でしたが、徐々に上昇し、2015年には30%前後と県平均並みとなっています。本診査については、特に若年世代の受診率が低く、慢性疾患や生活習慣病の予防や早期発見に向けて、更に若年世代からの受診率向上対策に取り組む必要があります。

また、がん検診の受診率は、県が示す目標値の50%には及ばないものの、平成28年度以降、受診対象者への個別案内通知を開始したことやがん予防推進員による啓発活動により、全がん検診で向上しています。引き続き、受診しやすい体制づくりとあわせて健康意識の向上を目指した活動に力を入れていく必要があります。

表 特定健康診査の実施状況

		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 (見込)
宇陀市	対象者数	7,444	7,361	7,124	6,803	6,609
	受診者数	1,898	1,979	2,063	2,106	2,079
	受診率	25.5%	26.9%	29.0%	31.0%	31.5%
県平均 (奈良県市町村国保受診率)		27.8%	29.5%	30.8%	31.2%	—

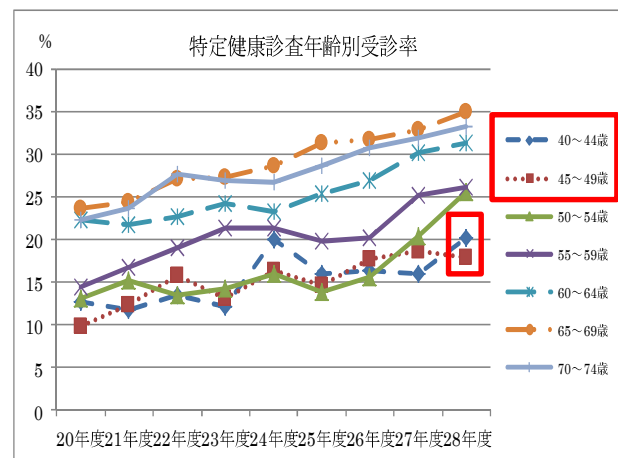


図 特定健康診査年齢別受診率

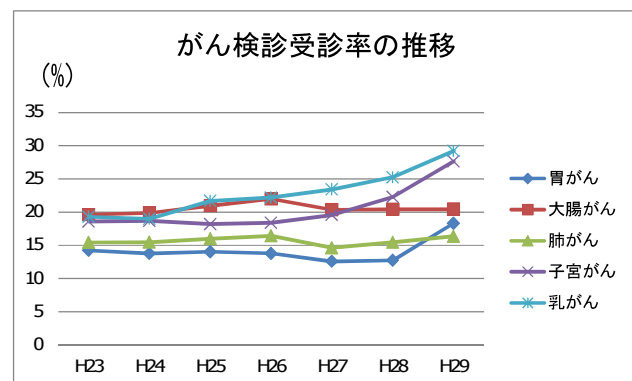


図 がん検診受診率の推移

(3) 施策

① 健康づくり活動の支援

長寿命化が進むなか、身体面の健康だけでなく、生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送るために、健康寿命を延ばす取組みが注目されています。そのためには、市民一人ひとりが運動や食生活、こころの健康づくりにも積極的に取り組むことや地域においてさまざまな健康活動が活発に行われるような機会を創出することが重要です。

様々な講演会等による啓発活動や検（健）診の受診勧奨及び受診しやすい体制づくりを通じて、市民一人ひとりの健康に対する意識を高めるとともに、疾病予防や健康づくりを目指します。

また、健康づくり推進員、食生活改善推進員、がん予防推進員等のボランティア組織と連携し、市民の主体的な活動を引き出し、信頼やネットワークを構築しながら効果的・継続的に取組みを推進します。



写真 健康づくり活動の一環としてのウォーキング

② 保健事業の充実

感染症の発症や重症化を予防するため、感染症の予防に有効であるワクチンの予防接種の啓発や接種勧奨を行い、接種率の向上を図ります。

また、こころの病気について十分な理解を深める機会を増やすとともに、精神疾患を抱える方やその家族、自死遺族等ハイリスク者への支援を充実し、自殺対策計画の策定・推進に努めます。

③ 介護予防の推進

高齢者ができる限り要介護状態にならずに、健康で生き活きと暮らせることができるように、壮年期からの健康づくりや生活習慣病予防等に取り組むことは非常に重要です。また、高齢者は生活活動が不活発になると、原因となる病気がなくても、骨や関節、筋肉等の機能が低下し、虚弱な状態に陥り、要介護状態になる危険性が高くなります。

そこで、介護予防が必要となる虚弱な状態である高齢者を把握し、介護予防事業等への参加を促します。また、年齢や心身の状態によるわけ隔てなく、地域で高齢者同士が誘い合って、参加できる介護予防活動として「住民主体の通いの場」を充実します。

さらに、要支援・要介護状態になっても、それ以上に悪化しないように、高齢者一人ひとりが自らの健康増進や介護予防に関心を持ち、生きがいや役割を持って生活ができるよう支援します。

(4) 関連する計画等

- 健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”構想
- 宇陀市地域包括ケアシステム全体構想
- 宇陀市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画
- 自殺対策計画
- ウェルネスシティ 宇陀市健康づくり計画
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1.2 みんなの幸せを支える福祉環境づくり

(1) 施策の方向性の概要

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的として、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい人生を最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス体制(地域包括ケアシステム)を推進します。

また、ハンディキャップを持つすべての人が個々のライフスタイルや環境に応じて自立した日常・社会生活を営むことができる福祉環境を目指します。

さらに、困難を抱えた家庭の課題に応じた包括的な支援を行いながら、自立支援をめざし、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる福祉環境や支援体制の整備を進めていきます。

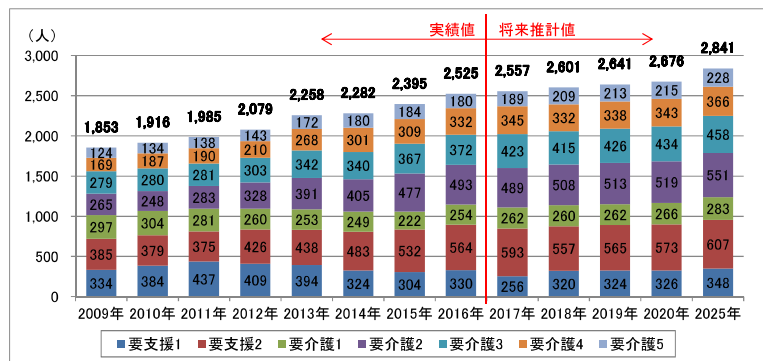
(2) 現況や課題の認識

宇陀市では、65歳以上の独居高齢者や75歳以上の老夫婦世帯の割合が急増しています。それに伴い高齢者が高齢者を介護する「老老介護」の増加や高齢者の親族が介護と仕事を両立することが問題となっています。

さらに、少子化が急速に進む中で、子どもの相対的な貧困率が上昇傾向となっていることが全国的な問題となっています。すべての子どもが、家庭の経済状況等に関わらず、健やかに成長できる環境を整備する必要があります。

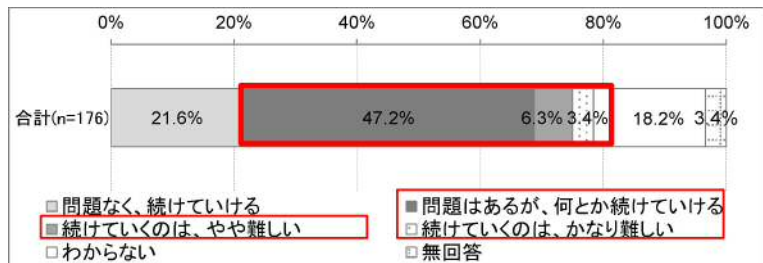
今後さらなる生産人口の減少や

少子高齢化の進展が予測される中、限られた人材の中で高齢者や障害者に対する地域の特性に応じた福祉サービスを充実させる必要があります。また、見守りや生活支援、地域活動、ボランティア活動等の地域の助け合いによる輪を広げて、認知症高齢者、障がい者、困難を抱えた家庭をあたたく見守る地域づくりが求められています。



資料：宇陀市資料

図 要支援・要介護者数の推移



資料：宇陀市資料

図 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

(3) 施策

① 介護・福祉サービスの充実

高齢者等が介護を必要とした場合にも、できる限り住み慣れた地域で生活できるように、介護関係機関等の連携によりサービスの向上を図ります。

また、今後策定する地域福祉計画をもとに、地域福祉の中心的役割を担う社会福祉協議会や、ボランティア団体等の各種関係団体の連携強化、地域の関係者や住民による見守りや助け合い活動の推進を図り、高齢者の生活を地域全体で支える体制を構築します。

② 障がい者の生活支援

障がい者が、安定した生活ができるよう、適切な支援やサービスが利用できる体制づくりを進めます。特に、2013年度より施行された障害者総合支援法に基づき、訪問系サービス、居住系サービス、日中活動系サービス等の障がい福祉サービスの充実を図るとともに、効果的かつ適切なサービス提供が行えるよう、ケアマネジメントシステムの構築を図ります。

また、障がいに関する啓発や関連団体の活動支援等を進め、障がいに対する理解を深め、障がい者が地域活動等、あらゆる分野の活動に参加する機会を得られるよう地域福祉の推進を図ります。

③ 困難を抱えた家庭への自立支援

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、同居・別居を問わず介護者をはじめとする家族への支援体制が重要となります。

社会福祉協議会が中心となり、家族介護者交流事業を実施する等、介護が必要となった家族を継続的に支援するために、介護技術習得の教室や介護者間の交流・情報交換の場を提供していきます。

また、全ての子どもが地域でのつながりを持ち、心身共に健やかに成長できるまちを目指して、困難を抱えた家庭への相談や生活支援を進めます。さらに、虐待予防のための相談体制の充実から発生時の迅速な対応、虐待を受けた子どもの自立支援等に至るまで、切れ目のない支援を受けられる体制の構築を目指します。

④ 地域福祉の環境づくり

市民の福祉に対する理解と参加を促すとともに各種関係団体と連携し、ともに支え合い、助け合う地域福祉ネットワークの形成を図ります。

また、誰もが安心して利用できるように公共施設のバリアフリー化を推進し、普及促進に努めます。

(4) 関連する計画等

- 健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”構想
- 宇陀市子ども・子育て支援事業計画
- 宇陀市地域包括ケアシステム全体構想
- さんとぴあ榛原経営戦略
- 宇陀市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 宇陀市障がい者計画

1.3 結婚・出産・子育て世代への魅力ある支援の充実

(1) 施策の方向性の概要

安心して子どもを産み、健やかに育てる総合的な子育て環境を築いていくためには、子育てを社会や市民全体の取組みとして捉え、行政をはじめ家庭や地域、学校・企業等が一体となって支援していく必要があります。

また、これまで家事や育児を担っていた女性の社会進出が今後も進展していく中で、保護者が仕事と家庭を両立でき、ゆとりをもって楽しく子育てできる環境を整えることが必要です。

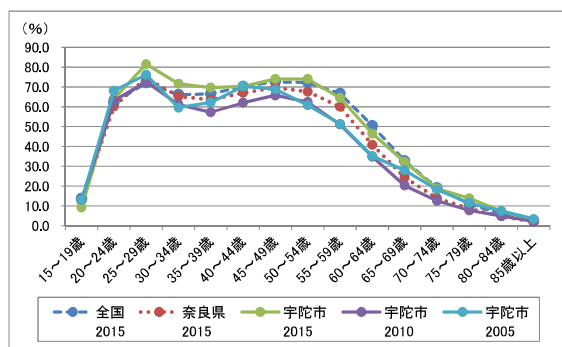
こうした背景も踏まえて、結婚・出産・子育て世代に対して、総合的な魅力ある支援を充実していきます。

(2) 現況や課題の認識

本市の女性の年代別労働力人口比率は30～40歳代で減少しており、M字カーブを成しています。女性が出産や子育ての時期に離職せざるを得ない状況になることも一因として考えられます。こうした傾向は2005年と比較すると2015年は緩和されていますが、依然として、30～40歳代での離職が多くなっていることが分かります。

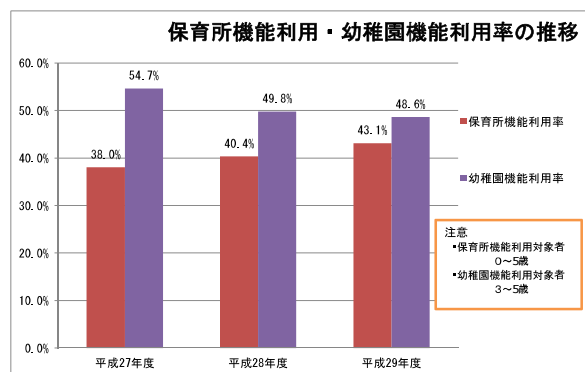
男女間での仕事や子育てに対する格差を是正しようとする社会潮流にあるものの、子育てにおける女性の負担は高い状況となっています。女性が仕事を続けながら、ゆとりをもって子育てができる環境を整備することが求められていると言えます。

また、直近3年間で保育所機能の利用率が上がっていることから、子育てへの支援が必要不可欠であるといえます。



資料：国勢調査

図 女性の労働力人口比率



資料：宇陀市

図 宇陀市内の保育所・幼稚園利用率の推移

(3) 施策**① 仕事と子育ての両立支援の充実**

仕事と子育ての両立を実現するために、市民のニーズに合わせた多様な保育サービスの充実に努めます。

例えば、地域特性を踏まえつつ、幼・保一体化を視野に入れた保育所・幼稚園の再編や教育・保育内容の充実に努めます。

② 子育て支援の充実

子育て環境の充実に努めるため、子どもとの生活に安らぎや夢を持ちつづけられる支援を継続し、全ての子どもがかけがえのない存在として尊重される取組みを進めます。

子育て支援センターの機能の充実や、子育てネットワークの構築、出産・育児・子育てに関する相談・交流・情報交換等の支援等に取り組めます。

また、保護者が子どもを安心して、保育所に預けられるように、アレルギー等に配慮した安全・安心な食事を提供できる環境を整えます。

さらに、子育て中の保護者と子どもと一緒に過ごせる時間を持てるように、図書館での講座開催等の取組みを進めます。

③ 母子保健事業の充実

女性が安心して妊娠・出産・育児ができる環境づくりや、子どもの健やかな成長のために、電話・面接・訪問等による個別相談・支援、健診や学びの場の実施、関係機関との連携等、妊娠期からの継続した相談支援体制を充実させます。また、一般不妊治療・不育症治療の助成をすることで、経済的負担の軽減を図ります。

(4) 関連する計画等

- 健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”構想
- 宇陀市子ども・子育て支援事業計画
- 宇陀市子ども読書活動推進計画
- 宇陀市地域情報化計画
- ウェルネスシティ 宇陀市健康づくり計画
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1.4 地域医療体制の充実

(1) 施策の方向性の概要

乳幼児から高齢者まで、安心して医療が受けられるよう、ニーズの変化に対応した医療体制を整備することが重要です。

特に高齢化が進む中、身近に相談できる「かかりつけ医」をもつことが重要です。また、在宅療養者の増加が想定される中、訪問診療等の在宅医療を提供する体制を整備するとともに在宅医療を後方支援する入院医療機関と診療所間の連携や医療と介護の包括的な連携ネットワークの構築を図ります。

(2) 現況や課題の認識

市内では、周産期医療や乳幼児医療の医療体制が不足しているとともに、宇陀市立病院の内科医の減少、地区医師会の診療所の数が年々減少しており、地域医療体制を維持する上で深刻な課題となっています。

本市が2017年に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、「人生の最期をどこで迎えたいですか」という問いに対して、約62%が「自宅」と答えています。一方で、それが「実現できる」と感じている人はわずか2割程度となっています。

その理由として「自宅で適切な医療が受けられるかどうか分からない」「病状が急変した時に適切な医療が受けられるかどうか分からない」等の在宅医療体制に関する不安が挙げられており、救急医療体制の構築や訪問診療を行う医師を増加させる取組みが望まれています。

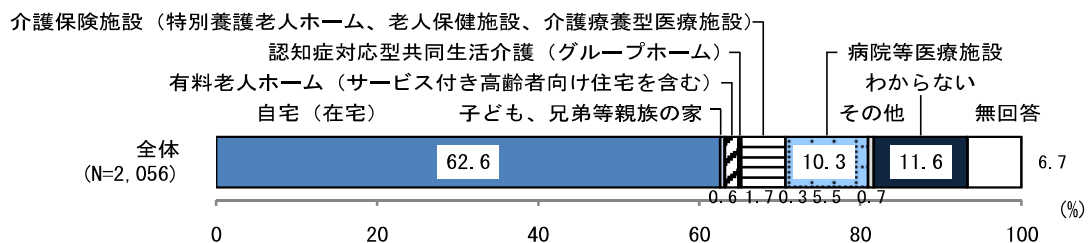


図 「人生の最期をどこで迎えたいですか」という問いに対する回答結果

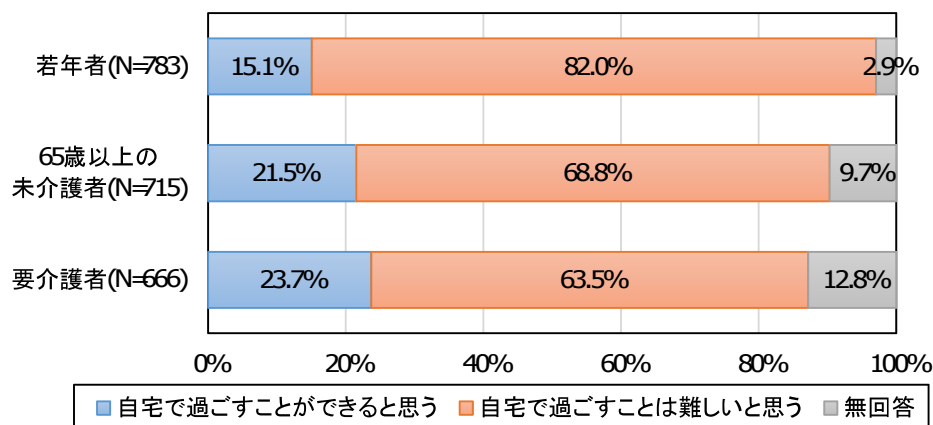


図 終末期を自宅で過ごすことができると思う人の割合

(3) 施策

① 医療体制の充実

奈良県においては、医師の偏在による弊害を解消するため、ドクターヘリの導入等、高度医療や救急医療体制については、広域的な医療の体制を充実させています。

本市においては、生活習慣病等に対応する日常的な診療体制や重症化予防を図る医療体制、高齢化に伴う在宅医療を推進する体制を整備するとともに、病院と診療所間の地域医療連携を強化していきます。

特に、深刻な医師不足については、慢性疾患等に対する日常的な診察や在宅医療等のニーズが高い医療に関して、医師の確保する取組みを充実するとともに、高度専門性が高い医療や救急医療等は近隣市町の協力を得ながら広域的に対応できる体制を構築します。

② 地域医療と福祉の連携の推進

高齢者や障がい者になり、医療や介護が必要になっても、自分自身にとって必要な時に医療・介護のサービスを利用しながら、住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを最期まで続けられることが重要です。在宅療養者を支援するために、医療・看護・介護の専門職の研修や会議を開催し、関係機関同士で顔の見える連携構築を図ります。

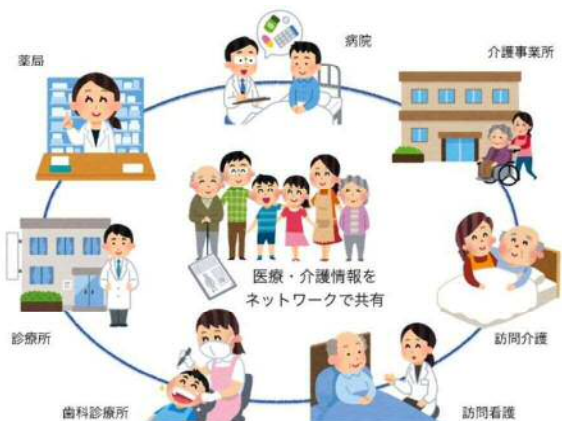


図 「宇陀けあネット」のイメージ

また、宇陀市では、奈良県のモデル事業として、さまざまな医療情報や介護情報を ICT で一元管理し、医療機関や介護事業者などが双方向に情報連携できる「宇陀けあネット」を導入しています。このシステムを利用することで、医療機関双方の連携、医療と介護の情報連携を円滑に行い、効果的、効率的で質の高いサービスの提供を目指します。

③ 国民健康保険・福祉医療費助成の推進

病気の早期発見、早期治療ができるように、国民健康保険加入者に対して人間ドック等の費用の一部助成等を行います。

また、子どもや高齢者に対する医療費の補助等を行うことで、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。

(4) 関連する計画等

- 健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”構想
- 宇陀市地域包括ケアシステム全体構想
- 宇陀市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画
- 自殺対策計画
- ウェルネスシティ 宇陀市健康づくり計画
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

2. 暮らしやすいまち

2.1 みんなが住み良いまちづくりの実現

(1) 施策の方向性の概要

本市の持続的な発展のためには、市民がいつまでも住み続けたい、来訪者が住んでみたいと思えるまちの環境を守り、創出する必要があります。

そのためには、自然や歴史文化と調和した景観形成や生活環境整備を進めます。加えて、良好な環境を活かして持続的に発展できるよう、環境と経済が両立するまちづくりを図ります。

また、安全・安心して暮らせるように、犯罪の抑止や被害者に対する支援等を強化していきます。

(2) 現況や課題の認識

① まちなみや景観

本市では、大宇陀地域の松山地区や室生地域の室生寺門前町をはじめ、歴史文化の豊かなまちなみや自然・田園環境と近接する景観が各所に残っています。市民アンケート等の各種アンケート調査でも、歴史文化が本市の強みとしてあがっていることから、これらのまちなみや景観は今後残すことが望ましい、本市の財産であると言えます。

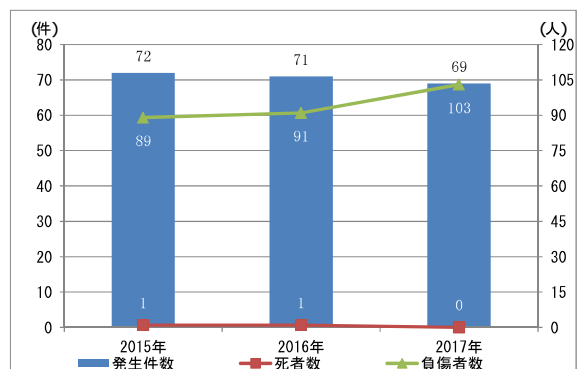
一方で、空き家や耕作放棄地等の現在のまちなみ・景観の維持を阻害する問題も宇陀市みらい会議や職員ヒアリングで挙がっています。



写真 宇陀松山地区のまちなみ

② 交通の安全

本市の交通の安全についてみると、2015年からは交通事故発生件数は減少傾向にあります。一方で、負傷者数は増加傾向にあることから、今後も交通安全対策を進めていく必要があります。



資料：奈良県警察本部

図 本市の交通事故発生件数及び死者数・負傷者数

(3) 施策

① 良好な景観や環境に配慮したまちの形成

いつまでも住み続けたい、住んでみたいと思えるまちづくりを進めるため、良好な景観や環境に配慮したまちの形成を目指します。

豊かな自然環境の保全と、歴史・文化的資源を活かした都市づくりを推進していきます。

② 交通安全関連の整備

交通事故の未然防止のため、安全に通行できる交通安全施設の整備を推進します。

③ 防犯体制と消費者保護の強化

安心して暮らせるまちをつくるために、地域と警察が連携しながら、地域防犯体制・活動の充実に努めます。

特に、登下校の安全を見守る取組み等を通じて、子どもたちが安心して登下校できる環境を創出します。

また、近年多発している消費者問題や特殊詐欺等から市民を守るため、相談窓口の設置等を通じて、消費者保護の強化に努めます。



写真 登下校の子どもを見守る取組み

(4) 関連する計画等

- 宇陀市都市計画マスタープラン
- 宇陀市松山伝統的建造物群保存地区保存計画
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

2.2 移住・定住の促進強化

(1) 施策の方向性の概要

本市における人口減少問題を可能な限り抑制するとともに、経済活動の活性化を図るため、積極的に移住・定住の促進を図ります。

まず、名阪国道や近鉄大阪線による都市近郊性を活かして、住宅や商工業地等各機能のバランスに配慮した複合的な地域振興策を展開します。

また、バリアフリーへの対応や子育て世帯等の住宅確保によって、だれもが住みやすい住環境を整備します。

加えて、本市の特徴を活かして、都市住民の定住化を視野に入れた魅力ある地域づくりを進めていきます。

(2) 現況や課題の認識

本市では、人口減少が進展しています。

人口動態のうち、転入や転出による社会動態に着目すると、地域差はありますが、2015年以降、社会減(転出超過)は徐々に改善されています。しかし、今後も人口減少の進展をできる限り緩やかにするためには、転出抑制・転入促進を図る必要があります。

また、宇陀市みらい会議や職員ヒアリング等を通じて、持ち主が分からない空地や耕作放棄地、空き家が増加していることも分かっています。

実際に地域への聞き込み等の現地調査を実施したところ、2018年3月現在で長期間の利用が無かったと思われる1,740件の戸建て住宅のうち約41.7%の726件は空き家であることが分かっています。

移住・定住を促進する上では、限りある土地や未利用地・空き家等を活用していく必要があります。

表 本市の人口動態

年度		H25	H26	H27	H28	H29	平均 (H25～H28)
区分	自然動態①+社会動態②	▲841	▲890	▲703	▲560	▲560	▲649
	自然動態①	▲356	▲330	▲319	▲315	▲355	▲330
宇陀市全体	社会動態②	▲285	▲360	▲384	▲245	▲205	▲319
	自然動態①+社会動態②	▲159	▲151	▲181	▲170	▲160	▲165
大宇陀地域	自然動態①	▲83	▲72	▲102	▲99	▲95	▲89
	社会動態②	▲75	▲79	▲79	▲71	▲65	▲76
菟田野地域	自然動態①+社会動態②	▲97	▲113	▲115	▲77	▲98	▲101
	自然動態①	▲66	▲71	▲54	▲40	▲55	▲58
	社会動態②	▲31	▲42	▲61	▲37	▲43	▲43
椋原地域	自然動態①+社会動態②	▲238	▲278	▲300	▲271	▲167	▲221
	自然動態①	▲122	▲106	▲88	▲109	▲139	▲106
	社会動態②	▲116	▲170	▲212	▲162	▲28	▲165
室生地域	自然動態①+社会動態②	▲148	▲150	▲107	▲42	▲135	▲112
	自然動態①	▲85	▲81	▲75	▲67	▲66	▲77
	社会動態②	▲63	▲69	▲32	25	▲69	▲35

(3) 施策

① 土地利用の推進

計画的な土地利用に配慮したまちづくりを推進し、市街地や商業地、住宅地等の健全な発展と秩序ある整備を進めるとともに、農地や森林地域等、自然環境の保全・活用を図ります。

② 定住につながる環境づくり

本市の都市近郊性を活かして、市営住宅の整備や空き家の活用等、特に子育て世代をはじめとした定住人口の増加策を積極的に推進します。



写真 空き家を活用した店舗(左)と空き家を活用したゲストハウスの運営者

③ U・I・J ターンの促進

20歳代の同窓会応援事業や結婚支援事業等を通じて故郷の良さを実感してもらい、若者の定住促進を図ります。

また、移住者を呼び込むことにより、人口減少の抑制を図ります。

そのために、的確な情報発信を行うとともに、就労体験・研修プログラムや住宅、定住促進奨励金をはじめとした受け入れ体制づくりを進めます。また、定住を促進していくための取組みを進めます。



図 結婚支援事業の取組み(左)と故郷の良さを実感してもらう取組み(右)

(4) 関連する計画等

- 宇陀市都市計画マスタープラン
- 立地適正化計画（策定中）
- 宇陀市公営住宅等長寿命化計画
- 宇陀市公共施設等総合管理計画
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

2.3 公共インフラの持続的な整備・維持・活用

(1) 施策の方向性の概要

道路や公共交通、上下水道、通信網をはじめとした公共インフラは住民の生活の基盤となります。

広域的な幹線道路の整備・維持・活用を通じて、市民の利便性向上や広域的な観光、産業の活性化につなげます。市道等の生活道路の老朽化も問題になっており、計画的に修繕工事等を進めていきます。また、歩行者や自転車が通行しやすい道路等の整備も進めていきます。

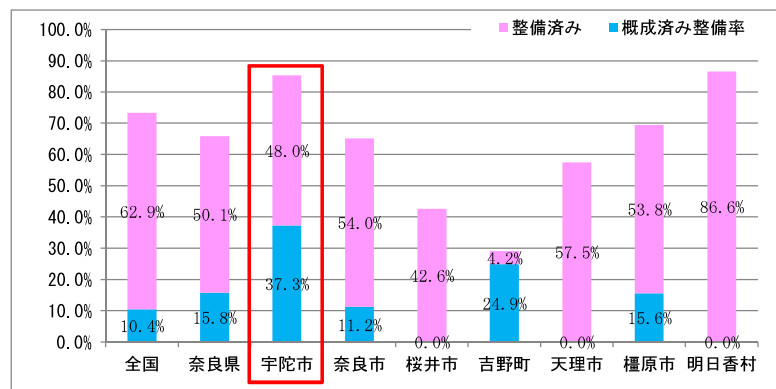
地域公共交通については、誰もが快適に市内を移動するために重要となります。一方で、自家用車の普及や人口減少により、公共交通の利用者数は減少傾向にあります。そういった中で、持続可能な地域公共交通の実現を目指します。

上下水道については、市民生活を支えるライフラインであるため、今後とも日常の利便性の確保とあわせ、災害に強く、安心して利用できる施設、設備の整備を進めていきます。

通信網に関しては、これまで整備してきた情報通信基盤を活用して、日常生活、行政等の各方面での地域情報化を推進していきます。

(2) 現況や課題の認識

本市の都市計画道路の整備率をみると、全国や奈良県全体、奈良県内の周辺市町と比較して、整備が進んでいると言えます。しかし、市が維持・管理する市道は全体で総延長 747km、1,689 路線にも上ります。さらには、市道の他に農道・林道等も維持・管理する必要があります。



資料：都市計画調査(国土交通省)

図 都市計画道路の整備率

また、上下水道インフラについては、人口減少に伴う料金収入の減少が予測される中、各施設の老朽化に伴う更新費用等の負担が増大しています。

道路や上下水道等をはじめとする各種公共施設等の公共インフラについては、老朽化に伴い、計画的な維持・修繕が必要です。また、人口減少や過疎化の進展に伴い、管理範囲の見直しも課題となっています。

さらに、地域公共交通を取り巻く環境は厳しさを増しています。市内の各地域を結ぶ路線バスに関しては、利用者数の減少によって収支状況が低迷して、路線の維持が困難になっています。

(3) 施策**① 安全で快適な道路環境の維持・整備**

今後も主要な市道の整備計画を立て、利便性の高いネットワークの構築を進めます。また、良好な道路景観の美化を図る等、快適で安全に移動できる道路環境の創出に努めます。

さらに、道路交通の安全を確保するため、舗装、橋梁、法面、トンネル等の定期的な点検や計画的な補修等を行います。

② 地域公共交通の充実

誰もが円滑に市内を移動できるように、地域公共交通の整備を進めます。

また、様々な人が鉄道やバス等の地域公共交通を利用しやすいような環境整備や利便性の向上に努めます。

③ 安心・安全な上下水道の維持・整備

安全な水を安定して供給するため、水道未普及地域の解消、水道施設の耐震整備及び水源の安定確保に努めます。

また、下水道施設整備を計画的に進めると共に、既存施設の長寿命化を図るため更新事業を進めます。

④ 地域情報化の推進

地域活性化や市民生活の質の向上を図るため、「地域情報化計画」を策定し、ICT 技術を活用した情報処理、情報伝達、広報、情報交換の仕組みを構築します。

また、個人情報のセキュリティー対策に十分留意しながら、インターネット等の高度情報通信ネットワークや宇陀市自主放送「うだチャン 11」等を通じて、行政や観光特産品、生活関連をはじめとしてさまざまな情報発信を行います。

(4) 関連する計画等

- 公共施設長寿命化修繕計画
- 宇陀市地域公共交通網形成計画
- 宇陀市水道ビジョン
- 宇陀市水道事業経営戦略
- 水質保全業務・未普及地域の解消・老朽化施設の計画的更新
- 宇陀市水道事業認可(4 次拡張)
- 宇陀市流域関連公共下水道事業計画
- 宇陀市下水道ストックマネジメント計画
- 宇陀市地域情報化計画

2.4 災害に備えた安全・安心な暮らしの実現

(1) 施策の方向性の概要

震災、風水害、火災等の災害から市民の生命と財産を守り、市民が安心して暮らせるように、災害の未然防止対策を進めていきます。

また、市民の防災に対する意識向上を図り、消防団をはじめとした地域における防災・消防体制の確立を目指すとともに、災害時に地域や関係機関、行政が一体となって活動できる体制の構築を目指します。

(2) 現況や課題の認識

近年の集中豪雨や連日の猛暑、乾燥等の異常気象により、本市でも河川の増水による決壊や山火事等の災害の危険性が高まっています。

本市では、災害への備えとして、自主防災組織の設立推進、ハザードマップの作成等の事業も進めています。

未曾有の災害に備えて、今後も市民と行政が連携して、市全体でまちを守っていく体制づくりを進めていく必要があります。

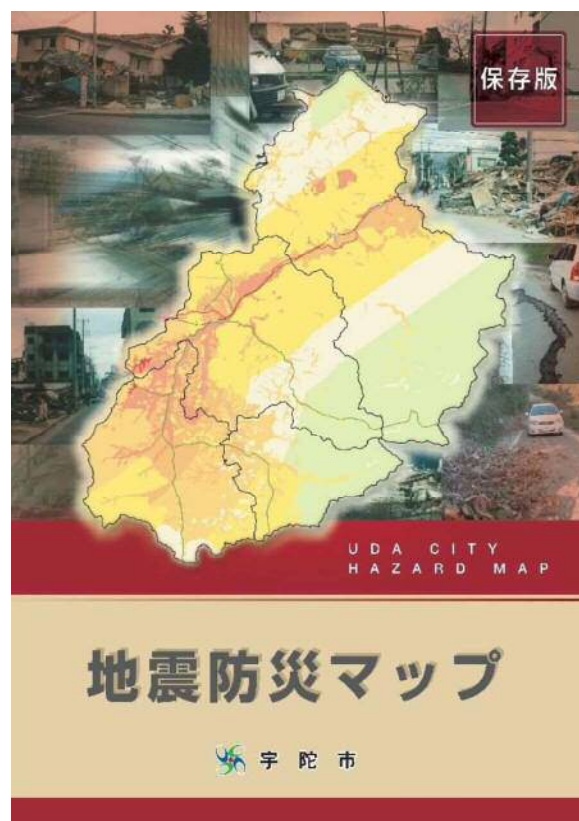


図 地震防災マップ



写真 消防団の出初式の様子



写真 台風による土砂崩れで崩壊した道路

(3) 施策

① 災害の未然防止対策の推進

土砂災害・地すべり対策等の国・県等が行う防災対策について、「宇陀市地域防災計画」等の市の計画に基づいて、実施を求めるとともに、協調して防災対策の取組みを進めます。

また、既存の住宅については、耐震診断や耐震改修の補助等を実施して、地震による倒壊の未然防止を図ります。

② 防災・消防体制の確立

震災、風水害、火災等の災害に対して、地域や関係機関、行政が一体となった防災体制の確立を図り、災害時における円滑な避難・防災活動が行えるよう、防災拠点施設や情報通信システム等の整備を図ります。さらには、消防団員数の減少に伴い、消防団組織の再編と自助・共助による地域の自主防災組織・体制の充実を図ります。

(4) 関連する計画等

- 宇陀市地域防災計画
- 宇陀市国民保護計画
- 宇陀市災害時要援護者避難者避難支援計画
- 宇陀市耐震改修促進計画

3. 活力あるまち

3.1 地域資源の保全及び産業と連携した活用

(1) 施策の方向性の概要

本市には、女人高野として有名な室生寺の数多くの仏像や建造物をはじめ、多くの国・県・市指定の文化財や歴史的な街並みがあります。また、古代より続く長い歴史と文化のなかで継承されてきた行事や芸能も存在します。

こうした貴重な文化遺産について、保存・修復や継承を行い、本市の貴重な財産として保全活動を行っていきます。また、併せて、主に観光の面において有効活用するための取組みも進めていきます。

(2) 現況や課題の認識

本市には、100点を超える指定文化財があります。古刹のひとつである室生寺では、釈迦如来立像や十一面観音像、菟田野古市場に位置する宇太水分神社では本殿が国宝に指定されており、国の貴重な財産である歴史資源が現在まで大切に継承されています。また、龍穴神社、八咫鳥神社、墨坂神社等の古来からの伝承が残る史跡も多くあります。



写真 本市の歴史資源(上：室生寺五重塔、左：八咫鳥神社、右：宇太水分神社)

建造物等だけではなく、菟田野秋まつりや墨坂渡御行列等の伝統的な行事や祭事も残っており、地域ぐるみで歴史や文化を守っています。一方で、宇陀市みらい会議等では、歴史・文化を保存していくための専門知識を持った人材の不足や行事・祭事を継承していく後継者の不足が問題になっていることが分かっています。



写真 菟田野秋まつり

(3) 施策

① 文化財の保護・活用

地域に伝えられてきた文化財・伝統芸能・美術・祭り・行事・人物等に関する資源・資料・情報等について、保存・管理を図るとともに、広報活動を充実し、身近に感じられるように活用します。

また、伝統文化を継承していくとともに、来訪者のおもてなしなど地域のホスピタリティを高めるために、保存会組織や後継者を育成するし、活動を通じて新たな魅力づくりに努め、観光施策との連携を強化します。

② 歴史・文化資源の整備と充実

史跡や重要伝統的建造物群保存地区の歴史的な街並みの整備を進めます。また、埋蔵文化財や郷土資料等の展示活用を図ります。さらに、住民参加による「おもてなし」施設運営等による地域の活性化により、市民が愛着を持てるまちづくりを進めていきます。

③ 宇陀市産物の利用促進

市内で生産された農産物や木材加工製品等を活用した特産品や名産品の利用促進や開発に伴う支援を行います。



写真 宇陀市産物を活用した商品(上：唐辛子、左：黒豆麺、右：黒豆パン)

(4) 関連する計画等

- 史跡宇陀松山城跡保存整備基本計画
- 史跡森野旧薬園保存活用計画
- 宇陀市松山伝統的建造物群保存地区保存計画
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

3.2 地域の産業の発展を担う次世代の人材の確保や育成

(1) 施策の方向性の概要

毛皮革産業をはじめとした地域の産業をより魅力的な産業とすることで、担い手の育成や確保を図っていきます。

併せて、本市の活力や発展を担う産業を育成するとともに、本市における働く場を確保していきます。また、産官学金(産業×国や地方自治体×大学や研究機関×金融機関)の連携により、産業の活性化やイノベーションの創出を促進します。

(2) 現況や課題の認識

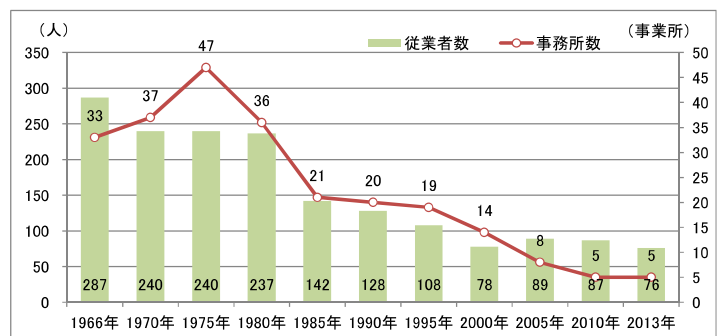
本市の地域の産業のひとつとして、地場産業である菟田野地域の毛皮革産業があります。本市の毛皮革産業は鹿革に関しては、全国シェアの95%以上、毛皮に関しては、45%のシェアを誇っています。また、原皮の輸入からなめし加工、縫製、販売までの一貫したシステムを持つ産地は全国でも菟田野地域だけとなっています。

しかしながら、近年は毛皮革産業を担う事業所、従業者ともに減少が続いており、産業を担う人材の育成・確保が課題となっています。

また、宇陀市みらい会議や関係団体へのヒアリング、市職員へのヒアリング等を通じて、毛皮革産業に限らず、市内の様々な産業で人材の確保が事業の存続の上での課題となっていることが分かっています。



写真 菟田野で生産されている毛皮革製品



資料：奈良県統計書、奈良県統計年鑑

図 毛皮革産業の従業者数・事業所数の推移

(3) 施策

① 雇用の創出

新しく本市で働こうとする方に対して、幅広い支援を実施することで、働く場としての本市の魅力向上に努め、産業の担い手確保に努めます。

例えば、国の地域おこし協力隊制度等を活用して官民連携による起業家を育成し、新たな雇用を創出するとともに、宇陀市の地域資源を活かした経済の循環を生み出すことを目指します。

また、テレワークやサテライトオフィスの活用推進により、子育て世代や介護世代の労働ニーズへ対応するとともに、従来の工場誘致とは違った新しい雇用の場の創出を図り、特に若い世代の都市部への人口流出を抑制するとともに、地域の活性化を図ります。



図 奈良県・ロート製薬・宇陀市の連携協定による仕事づくり (Next Commons Lab 奥大和)

② イノベーションの創出

産業を活性化し、各地域のイノベーションの創出をさらに促進するため、産官学金連携を進め、実効性の高い取組みの実施を目指します。

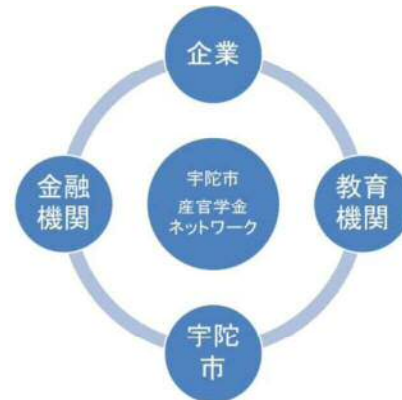


図 産官学金連携のイメージ

(4) 関連する計画等

- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 大和高原の魅力ある仕事づくりに関する連携協定

3.3 基幹産業である農林業の再生・活性化

(1) 施策の方向性の概要

本市の基幹産業である農林業について、農業生産基盤の整備及び農地の保全や農林業経営・生産・流通体制の強化を図ることで、再生・活性化を図ります。

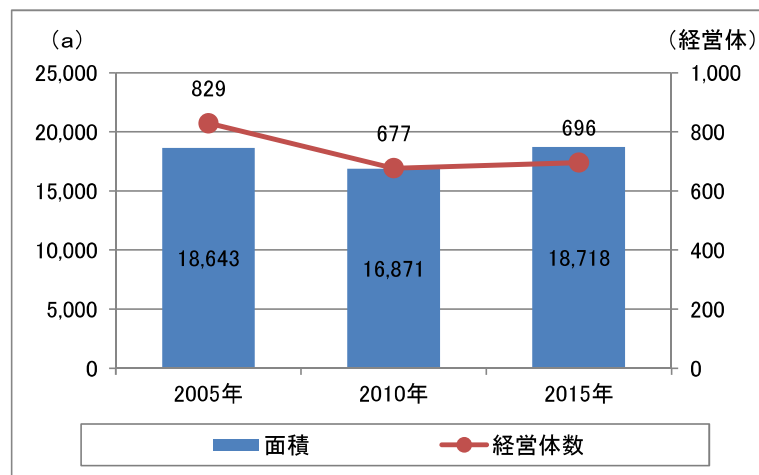
特に、農業に関しては、付加価値の高い農産物づくりを推進する等、農業の地位向上を図ります。林業に関しては、森林の保全と多面的利用を促進し、宇陀市産木材をはじめとした資源の有効活用を進めます。

(2) 現況や課題の認識

本市の基幹産業である農林業については、人材の育成・確保等で厳しい状況が続いています。

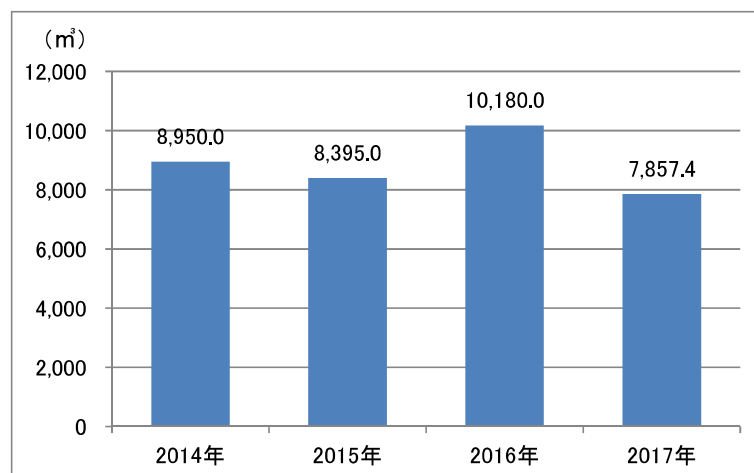
農業の経営体数については、2005年と比較して、約84.0%に減少、木材の搬出量については、2016年をピークに減少しています。

宇陀市みらい会議や職員ヒアリング等では、農林業の作業内容の大変さ(農地や山林の管理、毎日の農作業等)に対して、収入が低いことが新たな人材を確保する上での、障壁となっているという意見が挙がっています。



資料：農林業センサス

図 耕作放棄地のある経営体数と耕作放棄地面積



資料：宇陀市資料

図 木材搬出量

(3) 施策

① 農業生産基盤の整備と農地の保全

農道等の農業生産基盤の整備を進めるとともに、鳥獣害対策や耕作放棄地解消へ向けた取り組みや中山間地域対策等により、農地の保全を図ります。また、農地の出し手・受け手へのアプローチを行い、農地利用の集積・集約化を推進します。

② 農林業経営・生産・流通体制の強化

農業生産法人の育成、農地の集約化、流通システムとの連携や農産物の加工販売促進、観光農業や農業体験の展開等、経営力のある生産体制の強化を支援し、6次産業化を推進します。特に本市にゆかりのある薬草について、新たな栽培品種の増加等を通じて、薬草のまちとしてのPRや生産者の所得向上を目指します。

また、林業産物の加工販売・流通の促進として、木材・間伐材の利用促進を図るため、付加価値のある木材加工製品の生産を推進します。

併せて、農産物直売所や林業の中核的な存在である森林組合の強化と組合事業の拡充、運営の改善を図ります。

③ 付加価値の高い農産物づくりの推進

薬草のまち宇陀として、機能性のある農産物の栽培や食品を開発し、付加価値をつけてブランド化を図ります。

④ 森林の保全と多面的利用の促進

木材生産林と環境保全林に区域区分を設定し、その目的に応じた森林整備を促進する等、森林の保全と宇陀市産木材の活用を含め多面的利用を促進します。

(4) 関連する計画等

- 宇陀市公営住宅等長寿命化計画
- 公共建築物における宇陀市産木材利用推進方針

3.4 商工業の再生・活性化

(1) 施策の方向性の概要

本市の活力を醸成のため、宇陀商工会と連携して、商工業の再生・活性化を図ります。地域住民の日常的な生活の場である地元商店街も踏まえた、再生・活性化に向けた取組みを進めていきます。

地元事業所に対しては各種融資・支援制度を用いて取組みを進めます。

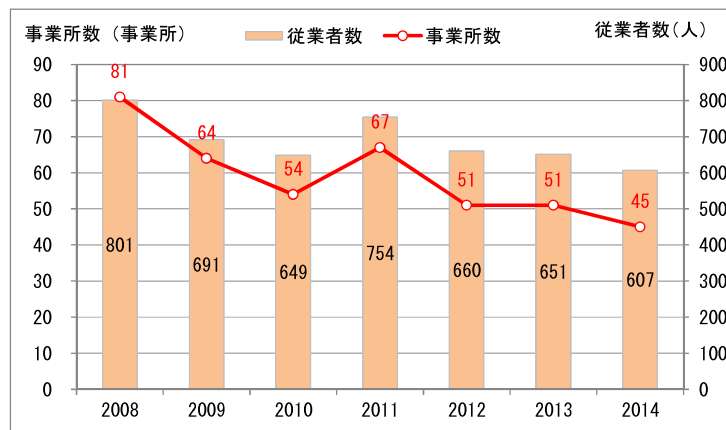
また、本市において、新たな産業が展開されるために、企業立地の促進や創業支援、本市が取り組んでいる「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”構想」との関連として、薬草の活用といった取組みを進めていきます。

(2) 現況や課題の認識

本市の工業や小売業・卸売業の事業所数をみると、いずれも年々減少傾向にあります。

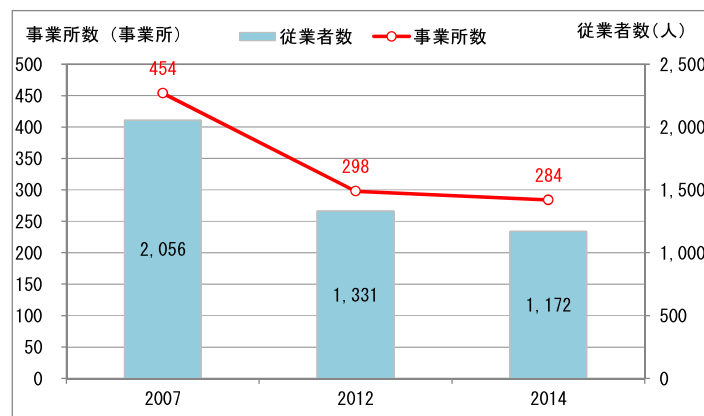
事業所数の減少に伴い、従業者数も減少しており、市内における雇用の創出の面でも、商工業の減衰が影響を与えていると言えます。

まちのにぎわい創出のために、商工業の活性化を図る必要があります。



資料：工業統計(各年)

図 工業の事業所数・従業者数の推移



資料：商業統計(各年)

図 商業の事業所数・従業者数の推移

(3) 施策

① 商店街の活性化支援

宇陀商工会と連携して、プレミアム商品券等地域振興券を発行し、地域の活性化と消費購買力の市外流失防止を図り、地域の経済循環を活性化します。

また、商業サービス環境の充実とにぎわいの創出を図るため、観光情報の発信や地元特産品の販売強化等によるまちのにぎわい創出や飲食店・物販店の立地誘導や空き店舗活用等による商店街の活性化により、魅力ある商業地の形成を図ります。

② 地元事業所活動の促進・支援

中小企業や地域の産業の振興を図るため、経営改善への支援、商品開発や販路拡大、情報発信への支援等を行います。また、国等の補助事業に対して応募する市内事業者に対して資料の作成方法や作成補助、ノウハウを伝授し、国の補助事業の取得を支援します。

加えて、地場産業である毛皮革産業の振興のため、毛皮革産業の後継者育成や、工場団地機能の安定化を図ります。

③ 新たな産業の展開

市内で創業、企業立地を促進し、新たな産業の展開を図ります。

また、薬草を活用した農業の活性化と「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”構想」に関連した取組みを進めます。



写真 市内での新規栽培・流通を支援している薬草(ヤマトトウキ)

(4) 関連する計画等

- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

3.5 観光戦略の推進

(1) 施策の方向性の概要

本市には歴史文化や自然環境、温泉といった観光資源があり、潜在的な魅力であるといえます。近年増加している外国人観光客(インバウンド観光客)の需要を満たすために、本市においても観光戦略を推進していきます。

本市を訪れる観光客が本市のもつ魅力を十分に感じることができるよう、各観光施設や案内板等の観光基盤を維持・整備していきます。また、本市に数多くある地域資源を有効に活用することで、観光・交流を創出し、交流人口の増加を図ります。

加えて、効果的な情報発信や民間事業者と連携したPR等を戦略的に実施して、観光誘客を行い、地域の活性化を目指します。

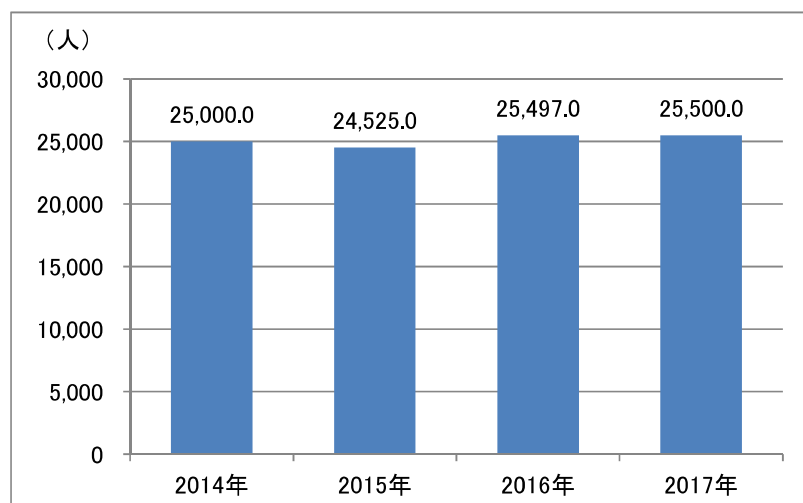
(2) 現況や課題の認識

本市を訪れる観光客数は、年々増加傾向にあります。一方で、観光客のうち、宿泊観光客数は横ばいが続いています。

また、日帰り観光客よりも宿泊観光客の観光消費額が大きいことが、国等の調査で分かっています。そのため、まちの活性化やにぎわいの創出のためには、宿泊観光客の増加を図ることはもとより、滞在型観光の促進を行う必要があります。



写真 市内の主要な観光資源である又兵衛桜



資料：宇陀市資料

図 宿泊観光客数

(3) 施策

① 観光基盤の維持・整備

誰もが観光しやすい環境を創出するため、市内の十分ではない案内看板の整備や、登山道や観光休憩スペースをはじめとした観光施設等の整備を進めます。

また、近鉄榛原駅・室生口大野駅・三本松駅において、観光客への市内観光地のPRや交通・宿泊・食事等の案内等を行い、地域のイメージアップを図り、観光振興を図ります。

② 地域資源を活かした観光・交流の創出

本市のさまざまな地域資源や歴史・文化遺産を活用し、多様で魅力的な体験プログラムを創出、ネットワーク化する等、体験型・滞在型観光の創出を図ります。

また、温泉を活用した観光施設の充実として、天然温泉のある「保養センター美榛苑」や「大宇陀温泉あきののゆ」等の温泉施設が連携してPRを図り、個性的で魅力ある取組みを進めます。

さらに、スポーツを通じて市内外の交流を推進することを目指します。また、スポーツツーリズムの推進によるスポーツ団体のイベント誘致や大会の主催等を行い、交流人口の増加を目指します。



写真 市内の文化資源を巡る観光プログラムの様子



写真 市内で実施している還暦野球の様子

③ 観光誘客の活性化

観光協会や宇陀商工会と連携し、ホームページによる情報発信や鉄道事業者等の旅行エージェントと連携した観光PR等、誘客活動を推進します。また、近隣自治体と連携し、広域的な観光も展開していきます。

(4) 関連する計画等

- 宇陀市観光基本計画
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略